

保育士支援のための傾聴スキル育成プログラムの検討

Examination of the training program of the listening skill for childcare worker support

有沢孝治

ARISAWA Koji

東海大学 教育研究所

THE Higher Education Research Institute, TOKAI UNIVERSITY

Key words : 保育士, 傾聴, 研修プログラムの設計と実践

目的

太田 (2011) は「子育て中の親や子どもに、寄り添って話を聴き、一緒に考えていくことが、親を支え、親としての育ちを促していることが、多くの実践から明らかにされてきた」と指摘している。保育士の傾聴スキルの育成が求められているといえよう。そこで、本論では2011年8月に(社)東京都民間保育園協会が主催し、筆者が依頼を受け、設計・実践した保育士支援に寄与する傾聴スキル育成プログラム(以下、傾聴研修会とする)に参加した保育士からの評価(研修後アンケートの結果)を材料に検討し、保育における傾聴の必要性について考察する。

方法

傾聴研修会(210分)に参加した民間保育園に勤務する保育士及び管理職158名に研修後アンケートを実施した(主催機関が作成、回収。回収率100.0%、有効回答率84.8%)。分析には保育士121名分のデータのみを用いた。アンケートは、研修内容のわかりやすさと園での仕事への役立ち度合について4件法でたずね、自由記述で感想も求めた。分析方法は、「わかりやすさ」と「役立ち度合」については、一要因の分散分析(被験者間計画)により、保育職経験の年数(3年ごと)での平均点の差を検証した。自由記述については、テキストマイニングを用い、名詞・動詞・形容詞の重要度の分析と中核ワードを任意に指定したコンセプトマップを作図した。

結果

参加保育士全員の「わかりやすさ」の平均点は3.93($SD=0.26$)で、「役立ち度合」の平均点は3.74($SD=0.44$)であった。傾聴研修会が全体的に高評価であることがわかる。次に参加保育士の経験年数を3年ごとに区切った平均点の差をみた。各問について各経験年数の違いによる平均点に有意な差は認められなかった(わかりやすさ: $F(5, 115)=0.38$, 役立ち度合: $F(5, 115)=0.92$)。また、各問の平均点がいずれの経験年数においても、わかりやすさで3.77以上、役立ち度合で3.62以上であった(上限4.00)。以上の結果から、保育職経験の年数に関わらず、傾聴研修会はわかりやすく、園の仕事に役立つ内容であったと評価されたことがわかった。

さらに、自由記述における名詞・動詞・形容詞を抽出しコンセプトマップ作図すると図1のようになる。「保育」の周辺には「活かす」、「役立てる」などが、「研修」の周辺には「傾聴」、「園」、「職員」、「気づく」、「聴く」が、「聴く」の周辺には「気づく」、「大切」、「言う」などが配置された。また、形容詞のみを抽出した分析では、「楽しい」、「わかりやすい」、「よい」、「嬉しい」などの肯定的なワードの出現頻度が高かった。

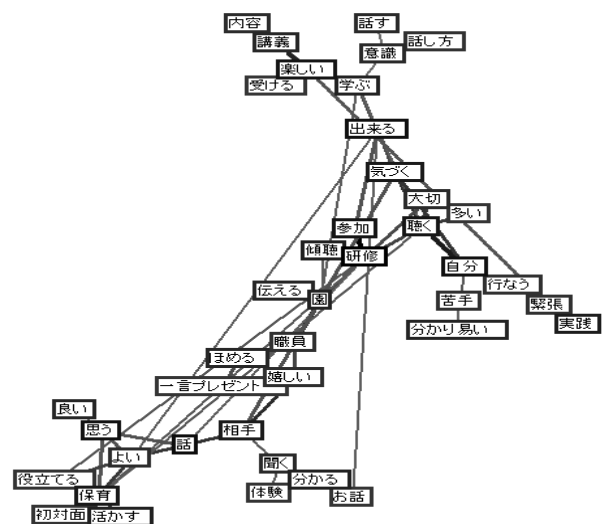


図1. 傾聴研修会の感想のコンセプトマップ

考察

傾聴研修会は、保育士にとって楽しく、わかりやすく、園での活動に役立つと評価された。現役の保育士からの肯定的な評価は、傾聴スキルの育成が、保育活動にとって必要であることを示していると考えられる。保育士の抱える仕事上の問題を直接関与して解決することも保育士への支援となるが、保育士能力(本論では傾聴スキル)の育成を目指す実践プログラムの提供により、保育士の問題解決力(例えば、保護者からの相談への適切な対応)を高めることも保育士支援になると考える。

参考文献

- ・太田光洋 2011「保育所の役割はどのように変わったか」
大豆生田啓友・太田光洋・森上史郎編『よくわかる子育て支援・家庭援助論』pp.46-49, ミネルヴァ書房